

西暦	年号	雲仙関連の出来事(記号・数値:古新聞)	島原半島関係	他データ	社会の動き
	紀元前6000年前後	・縄文時代前期のものと考えられる生活痕が温泉(雲仙)別所付近から発見されている。これらは当時、先住民が夏期を中心に住んでいたと推測される。島原半島には無器時代(から縄文時代(約9000年～2300年前)、その後の弥生時代)からの古墳時代の遺跡、生活痕が多数発見されている。(湯けむりの記憶)			
	紀元前6000年前後		・縄文時代後期、熊鷹の池周辺に部族国家が発生。支石墓(ドルメン)が残された。(湯けむりの記憶)		
	紀元前529		・島原半島ができたのは、新世代の第三世紀末であろうと地質学者は言っている。この島原半島には高麗の漢羅主の四人の船が飛来して佐々木という伝説から島原半島の物語は始まる。(温泉山縁起)肥前高野郡に山あり。温泉と号す。(伽藍記)。この山は、日本国天皇三代安寧天皇の御大、高麗の国より飛来。(伝説)		
	紀元前300年前後		・この時代の遺跡に、朝日山(小浜)、山の寺(紫江)がある。(湯けむりの記憶)		
88		・温泉山や島原のことが文献に現れ始める ・旅行天の18日6月高来郡に到り行幸し給い、これより肥後の玉杵の池に渡り給い、進んで阿蘇に入り給う(日本書記)	・温泉山や島原半島のことが文献に現れ始める。即ち、天皇熊鷹戦役の時、肥後長狭(ながさ)の宮で温泉山を見て「あつ山は島に似ておるが跡に似ておる山か、金(隠)れておる島か、既に之を知りていとみわの大野宿禰を見にやられた。ところが迎えに出ていける人があつて「私はこの山の神の、高来津座と申します。勅使がお出になるに知ったのでお迎えに参りました」と言った。よって、高来津(たかくこり)という。(肥前風土記)大野宿禰の上跡地を大野宿(大三東村大野)、高来津座と申したことを、変津(変野野変座)という。高来津より肥後五杵の岳に渡るとき、その土蜘蛛、津波頼(つころ)を殺す。(景行天の十八年六月高来郡に到り行幸し給い、これより肥後の玉杵の池に渡り給い、進んで阿蘇に入り給う(日本書記)		
646	大化2				◆「大化の改新」により中央集権国家が確立され、地方には大和朝廷により国郡制が敷かれた
701	大宝元年	・僧行基大乗院講明時を開基し、四面宮をあわせて祀り、山号を温泉山と号する		・行基の師:道昭といわれている。法相宗(中国唐の時代の玄奘に師事)	
709	以前	・行基菩薩伝法弘通のため、4月17日高来山を下して、三七廿1日の祈願をこめて山の主を尋ねられた。満願の日の五更(午前4時～5時)頃空中に十丈はみゆの大蛇が現れ、行基を見てたちまち四面の美女となった。 行基が「故の本姓は何か」と問われると「吾の真の本姓は吾智の如来である」と答えて大光明を放った(温泉山縁起)。そこで行基は文武天皇に奏して造幣伽藍の開基を願った。行基の上知申まで進んだ。伽藍が出来たか四面大菩薩を勧請し、温泉山大乗院講明時と名づけた。この時多比良の長者愚歌にいた薩摩の長者は沢山の資金を寄附したと伝えられており、行基31才の時といわれている。 ・行基が祈願をした池を一切経といひ、経文流して、その経巻が流れた池を泉治といひ(伝説)			◆平城京に遷都(710) ◆「古事記」(712)
709	和銅2	・文の平、日之津(現)瀬戸観音がまつられた。これは僧・行基が流木作り観音像にしたものゆえ。	・後年、吉列支丹の乱のとき、焼かれも毀されもせず、現在まで残っているのは大月山玉峰寺の松岩高が山中に穴を穿て後や記録を埋め、久しい間、一生懸命に守護したお陰であると考えられる。		
713	和銅6	・肥前風土記に「高来郡」の名の起こりと温泉のことが記されている		・時の元明天皇が全国の国司に命じて作らせた「肥前風土記」に温泉(雲仙)の記載がある。「案の湯の泉、郡の南にあり、此の湯の源は高来郡の西南のかたの峰より出でて東に流る。流れる勢いは甚多に熱こと余の湯と異なり、但し冷き水を知て、すなわち、沐浴することを得。其の地は磯し、硫黄、白土、及、和石あり、以下略」なお、同記によれば、肥前国は一郡、七十郡からなり、(駅(うま)は)十八ヶ所、寺は二十ヶ所とされている。(湯けむりの記憶)	◆「風土記」作成の命(713) ◆「日本書紀」(720)
749	宝平1	・行基菩薩は、81歳をもって入滅した。			◆東大寺大仏開眼供養(752)
778	宝龜9	・大乗院講明寺に法華権杖を生じ、兵火起こり焼失した。 ・肥前の国内の山に約1歩につき数100文宛寄付して再建することになる(温泉山縁起)			
790	延暦9	・弘法大師温泉山登山、聖地之に如くなしと賞賛する(伝説) ・弘法大師という大蔵号は、空海の入定後に86年後の延暦21年(812)にときの醍醐天皇からあたえられたもの。	・小浜町の富津の住氏が飲料水に苦しむのを知り、その位置を示し、頼りせの井戸が現在の六角井戸と伝えられている。 ・また、山の上部帯には大豆が実らない話もある。(北申山の地区)	・特定の宗派を開いたり、有力な寺院を建立したりした功績の大きかった高僧に対しては、没後しばらく経過後に弟子などによって「大師号」が要請されることがある。政治権力が仏教などの宗教よりも、上位にあった中国での産物で、日本で天皇から大師号が、貞観8年(866)の伝教大師(真経)・慈覺(円仁)の両大師から、大正14年(立正大師)日蓮まで27人に及んでいる。その中でも、空海の弘法大師は最も知名度が高く、単に「大師」といときは、空海を指すことが多い。世に「大師は、弘法にとられる」といわざもあ	◆平安京に遷都(794) ◆最長佛朝し天台宗伝来す(805) ◆空海佛朝し真言宗伝来す(806)
806	大同元年	・空海佛朝し真言宗を伝来する。空海玉島玉之浦に大空寺、平戸に最教寺を開く。			
860	貞観2	・従五位下であった大乗院は、この年従五位上し昇叙された(三代実録:平安時代の歴史書)			
931	承平1	・大乗院講明寺、再び火災で全焼した。以後170年間仮堂のままとなり一時中絶の空ひなに至った(温泉山縁起)			
1115	永久3	・僧の定僧、四方に勧請して大乗院講明時を再興した。以来次第に真言密教の聖地として慕われて ・瀬戸石原に300坊、別所に700坊、併せて一千坊もあったことがある(温泉山縁起)別所の山中の自然石に大きな大黒天の像が刻まれている。この時代の作ではないかと推定される。(A24)			
1126	大治元年		・藤原幸通の第二子、勅使として下向し、北村に居を定め小浜氏を名乗る。		
1154	久寿元年		・頼西八郎為朝、鎌倉幕府により九州に流される。		
1156	保元元年		・頼西八郎為朝が島原半島に侵入して、荒し回って半島を領有していたが、この年、上京して「保元の乱」に加わった。(伝説)「富津の惟山に八郎様と呼んでいる。石後がある。有馬には八良尾といふところがある。その他矢の矢はず、などの地名があるところを以て見れば、為朝の一時領有していた事は確かであろう。		◆文永の役(元寇)(1274) ◆弘安の役(元寇)(1281)
1160	永暦元年		・多比良に日向太郎通良といものあり、勅命に背くとして平清盛の臣、平家貞が来て攻めて300人を殺す。(島原人物誌)しかし、これには異説がある。通良は、佐賀三業基部族部山居住であった高陽史歌に出ていた。		
1215	建保3年		・藤原純女の子孫、藤原経徳が地頭職となり、島原半島南部を支配、有馬に1住し、有馬氏と称す。この経徳が日之江城を築いたと伝えられる。		
1246	寛元4年		・有馬左衛門尉朝澄は、串山郷の土地問題で鎌倉幕府に訴訟を起こした。		
1274	文永11年		・文永の役が起きた。有馬左衛門尉朝澄は、島原半島の兵をひきい博多に出陣、防戦大いに努め、認められた。		
1128	弘安4年		・元軍、博多に来襲する。この時、四面の勇士現れ、元軍を悩ませて之を退けた。どこの人と問うたに、温泉の者といひ、後で論功行賞の時、温泉を探したが見られ、多分四面大明神であろうということになって、之に由を密告し、四面大明神の神尊を勧請したと伝えられる。これから武神として尊崇をうけ、九州総鎮守となり、諸侯から幣帛を奉るようになった。(温泉山旧記)		
1347	正平2年		・有馬氏四代連純、北有馬の日之江城(平山城)を築する。居城とする。		
1353	天享8年		・有馬澄世、南朝方となり、肥後の菊池武光と共に西征得御権良親王を奉じ、九州探題、一色範氏の子、小浜小幡七郎氏連と戦った。		
1354	正平9年		・北朝方の一色道敏(いっしきのみゆ)が来て、南朝方の西郷、多比良、島原の諸軍を攻めた。南朝方は善戦、大いに努めたが振るわず。		
1358	正平13年		・有馬直徳、大智禪師の地を慕い、6月23日加津佐に水月山円通寺を建立し、禪師を開基とした。		
1366	正平21年		・大智禪師、77歳で加津佐に入寂した。円通寺跡にその墓がある。無縁の墓である。		
1385	元中2年		・北朝の探題、今川了俊が来て、西郷、神代を攻略して、千々石の飯岳城にせまった。城主田越岐守、之を迎え、善戦大いに努めたが、遂に破れた。有家軍も亦破れ、半島内の南朝方は全く衰えた。		
1496	明応5年		・有馬貴純が、南有馬に原の城を築いた。以後有馬氏代々の居城となった。日之江城は、これら有馬氏の隠居城となったと伝えられる。		
1549	天文18年		・西班牙(スペイン)の宣教師、フランシスコ・ペレル、鹿島に上陸した。耶穌教伝来の初めて。		
1551	天文20年				
1562	永祿5		・領主有馬義直、宣教師ルイ・アラームダを招いて口之津に教会堂を建設。これが島原半島に教会堂ができた初めてであった。これから次第に島原半島に耶穌教が盛んに布教されることになった。	日本で最初の教会が、平戸につくられた。	◆ポルトガル船、種子島へ漂着して鉄砲を伝える(1543)

1563	永禄6年		・宣教師。(イルマン)ハンネルス・アルメーダが、この10月に島原港の一部で、もと城のあったところに、有馬義直の許可を受けて教会堂を建てた。これから島原付近にも教徒が次第に多くなった。(後に、イルマンは小浜に居たが、捕縛の身となり、牢へ入れられた。「現在の北野」)「ハンネルス」が昔を今に伝える。		
1567	永禄5年		・ポルトガルの船が初めて口之津港に入港して有馬氏と貿易が開始される。この年、島原港にあった教会堂は、何のためか没収されて再び城が建てられた。		
1569	永禄12年		・有馬氏の家臣、千々石淡路守が千々石築城し、北方の守備に当たるといった。これを釜蓋城といふ。	0	
1571	元龜2	・大寺院清明時の僧兵、権児の喧嘩から争を起し、再び争いで大いに争い争ひも廃失。「白雀の乱」といふ(都宗頼朝)有馬修理大夫義直は300の兵を派遣して(兵数には異説がある)之を鎮定した。この時、争に権児が居るから、かゝる争いを起こすといつて、権児を捕らえて庵舎へ投げ入れたので、その庵を権児庵としの庵といふと伝えられている。原因は権児が一羽の白雀を争ったことから起きたのである。それでこの争いを「白雀の乱」という。(この伝承の正確な記録は残っていない)	長崎に初めてポルトガル船が入港した。	白雀の乱は、謡曲の語で実際は強制的にキリスト教とされた仏僧と、正当派仏僧との争いだったと思われる。(俱井統)	◆本能寺の変(1581)
1572	元龜3年		・明治初年まで、島原八景の一つになっていた。島原市の移居の龍原山西寺は、この年建立であつて、ずいぶん古い寺である。		
1576	天正4年		・領主、有馬義直と同夫人は、宣教師ルイス・アルメーダを城下中に招き、洗礼を受けてカトリック教徒となつた。洗礼名はアンドレ。		
1577	天正5年		・佐賀の龍造寺隆信が、島原半島に侵入し、先ず、千々石の釜蓋城を攻撃した。時の釜蓋城主は、千々石大和守澄幸であつたが、奮戦大に努力したと伝説聞かむが、遂に自決した。時に城は66歳であつた。龍造寺は翌年、天正6年に再び有馬領に侵入して来て、島原城を攻め、城主島原純豊は降伏した。		
1579	天正7年		・口之津で、宣教師大会が開かれた。出席者は82名である。有馬には、キリスト教の学校が建てられた。 ・時の領主、有馬義直夫妻共洗礼を受けてカトリック教徒となつた。翌年の天正8年には、有馬と有馬には、美しい宣教師駐在所が建てられている。 ・ポルトガル船が、口之津へ入港し、イエズス会巡察使ヴァリアノ来日		
1580	天正8年		・長崎がイエズス会の知行地となる。 ・有馬春信が、巡察使ヴァリアノより受洗。		
1581	天正9年		・口之津に、キリシタン学校が建てられた。領主有馬晴信は、深江主、安富伯 森を攻めたが、安徳道仙、島原純豊は深江を助けた。かくして有馬氏は次第に龍造寺の勢力に押されたのである。		
1582	天正10年		・大友、有馬、大村、の各家から、ローマに派遣された少年使節団一行は、この年、正月18日に長崎から出航している。本能寺の変起る。 ・千々石ミダグ(有馬)、中浦ジュリアン、原マルチノ(大村)、伊藤マシヨ(大友)		
1583	天正11年		・この年の、夏、薩摩新納忠徳が来て深江を攻めたが、破られて逃げ帰っている。		
1584	天正12年		・佐賀の龍造寺隆信が大軍を率いて島原半島に侵入してきたので、領主有馬晴信は、薩摩島津氏へ援軍を求め、これと連合軍を組織し島原の森岳に防陣陣地を構築し、3月24日(旧暦)之を迎えて決戦、龍造寺隆信は戦死し、佐賀軍は敗走した。(伊田忠司の戦い) ・千々石にあった仏寺の跡をえらんで教会堂が建てられた。(1585年10月、フロイス報告)		
1586	天正14年		・南有馬浦田親善堂は、この年に建てられた。山崎肥前守という有馬晴信の家臣が、晴信に若者誕生されたが、母に父が足らぬ心配して、城内に親善堂を建て、親善普鐘を祀つてから乳が出るようになったと伝えられている。キリシタンの乱の前、取壊されたが、高力摂津守忠房が入封して再興したものである。今日、有馬の浦田親善といつて有名である。		
1587	天正15年		・夏、秀吉が九州征伐をした。その時、有馬晴信は直ちに降参したので、四方石を領することを認められた。 ・この年、秀吉は筑前国箱崎(現、福岡市東区箱崎)で宣教師の追放令を出している。7月24日(陰暦6月19日付けの追放令)このためか、京都、豊後等にあった吉利支丹学校は、有馬に移されている。 ・秀吉は「伴天連追放令」を出し、長崎没収を決めた。(秀吉の全国統一)その内容は、キリシタンに名を刺し、「伴天連追放令」で追放を命じて、司祭・修道士には20日以内の旗告・帰国を宣告。その結果、全国の司祭・神父たち、および豊後から山口に移つていた神学校(セナリオ)の神学生は避難を余儀なくされ、九州平戸に逃げた。 ・西暦1588年、天正16年佐賀藩の鍋島直茂が初代長崎代官として着任した。		
1590	天正18年		・この年6月16日に、先にローマに派遣された、大友、有馬、大村家の少年使節団は長崎に帰国した。これと共に、オルガン、印刷機が輸入された。		◆文禄の役、秀吉の朝鮮征伐(1592) ◆慶長の役、秀吉朝鮮征伐を命ずる(1597)
1591	天正19年		・有馬のセナリオを八良尾に移し、カンゾは天原に移した。この年から、島原半島で書籍の出版が盛んになった。現在、英国にただ一部、保管される珍書である。加津佐版「サントスの御傳書」も、この時、加津佐で出版されたものである。		
1592	文禄1年		・豊臣秀吉の征韓役(文禄の役)に、領主有馬晴信は、兵2千を率いて従軍した。 ・豊臣秀吉、初めて長崎、京都、堺の貿易商人に御朱印船貿易を始める。		
1596	慶長1年		・有家で初めて、銅版印刷が行われた。		
1597	慶長2年		・長崎西坂で26人の宣教師及びキリスト教信者を処刑す。(現、西坂公園内26人聖人殉教地)		
1600	慶長5年		・関ヶ原のたたきの時、領主有馬晴信は、徳川家康の見方をして、出陣して偉功をたて家康から認められた。家康との交渉はこれから深くなる。唐船が初めて長崎に入港した。		
1603	慶長8年		・有馬春信、初代の島原藩主に任官。四方石。		・徳川家康、征夷大将軍となり江戸幕府開く
1604	慶長9年		・有馬晴信は、家康から呂宋、ジャム航海の朱印状を受けて、海外貿易を始めた。(生糸取引仲間)を作る。		
1605	慶長10年		・西有家の須川南日張の墓地に、ラテン文字刻の墓碑がある。慶長10年と刻んであるから、この年に死んだ人であろう。		
1607	慶長12年		・有馬春信の貿易船乗務員五名、マカオにてポルトガル海兵に殺される事件。		
1609	慶長14年		・この年12月12日に、有馬晴信は、兵船7隻をもってポルトガルの商船マードレ・デウス号を長崎港で襲った。ポルトガル船は、港外まで逃げたが、そこで自爆した。有馬方は死者17名を出した。これは、ポルトガル船に、うちみありと、彼の入港を待ち受けての報復したのである。		
1610	慶長15年		・この年11月、家康義孫を有馬晴信の息子、有馬直純に嫁せした。 ・北有家の春田にキリシタンの墓碑「シア」の墓がある。これは、慶長15年11月17日生まれ、年20歳、ロシアとあるから、今年に死んだ人であろう。		
1612	慶長17年		・有馬晴信を騙した、關本大八は家康の取調へを受けて罪に服し、3月21日に安倍河原で火炎の刑になった。しかし、有馬晴信も罪を得て3月22日付けで、甲斐国へ流刑の罪になっている。 ・南上山に「りあん」と刻んだキリシタン墓碑がある。慶長17年9月3日と刻んである。 ・幕府が、キリスト教を禁止する。(禁令が立つ)		
1613	慶長18年		・この年の、5月7日に有馬晴信は、甲斐国流刑で切腹を命ぜられていた。年、46歳であつた。晴信の子、直純は棄教した。そして、各寺院に奔訴証文を出させた。 ・多比良に高力山正覚寺が建立された。 ・イギリス船はじめて長崎に入港した。平戸にイギリス館建つ。		・徳川家康、キリスト教を完全禁止。各地に禁令が立てられる。 ・幕府、全国のキリスト教宣教師、指導の教徒などを長崎に集め国外追放。また、教会破壊などのキリシタン弾圧が始まる
1614	慶長19年		・有馬右衛門佐直純、日向延岡に国替となり、高鍋城主となり、島原半島は一時公領となる。 ・この年、小浜の北村「あるまん」といものがいて、ヤソ教を布教したと、奥左衛門という者が訴入したので捕えて牢に入れた。これを「あるまん牢」と伝えられている。 ・深江村の岸井口墓地に、この年建てられた「ガスパル」に刻した吉利支丹墓がある。 ・三河(愛知)よりきた小浜の本多氏と島田氏が入浴者の井を掘り、海岸に海小屋を建てた。(宿泊長屋) ・大坂冬の陣起る		
1615	元和元年				・大阪夏の陣、徳川方の勝利、豊臣氏滅亡する。
1616	元和2		・松倉文俊守直政、大和五条の城より封討され島原半島に入る。初め有馬直之に城に入り、暫くして島原の森の城に移り島原の森岳に築城の設計をはじめ(4万2千石) ・貿易港として、長崎と平戸が定められる。		◆関ヶ原の役(1600) ◆家康征夷大将軍となり、徳川時代はじまる(1603) ◆大坂冬の陣(1614) ◆大坂夏の陣(1615)
1618	元和4年		・松倉直政、島原の森岳より独立高地に築城の設計口取り、始め原の城の石材その他を運搬して築城を始めた。かくして7年後、その居城として島原城は完成した。この城は安土桃山式築城術の粋を發揮したもの		・徳川幕府、長崎・平戸の両港を通商港にする。 ・幕府、キリスト教の伝播を再度禁止。
1619	元和5年		・長崎奉行所を置く		
1620	元和6年		・長崎に興福寺建てられた。 ・イスパニア船の来航を禁止する。		

1717	享保2年		・松平忠房の子、忠倫の妾、お百合の方は、この年の2月、林田来求右エ門が斬つたと伝えられる。その年だ公子二人が隠されてから23年		
1718	享保3年		・松平忠倫は、この年の8月20日、61歳を持って死んでいる。		
1720	享保5年		・6月30日をもって、天草領は松平忠雄に預けられた。即ち、島原藩の委任統治領になったのもである。この年の、ハゼの栗を約二万二千斤を大阪へ移出している。		
1723	享保8年		・島原大手の初市は、この年から開かれたものと見て、島原藩日記の條に、次の記事がある。街奉行所届出帳 作(三日前のこと)の初市書付けとして、(1)人高一万の余(2)見度数55件、内4軒人形売世、(1)高い方高6貫余(1)童売見世12軒(綱島貞室)		
1731	享保16年	・湯守三代目加藤忠右衛門忠輔が、温泉の土地に浴場をつくる。これを「南温泉」といひ、寛文12年(1653)に掘つた古湯のことを「北温泉」といふ			
1735	享保20年		・松平忠雄、隠居控任。松平忠俊嗣ぐ。天草の委任統治は前代の如し。12月12日老臘、黒川頼母切腹せられる。		
1738	天文3年	・温泉山頂(善賢岳)に「殺生禁止」の石札がたてられる	・3月20日松平忠復死す。4月3日養子、松平忠嗣嗣ぐ。天草委任統治は前代の如し。享保20年から、この年迄の間に、30番神像は祀られたのであるが、くわしい年代はわからない。		
1739	天文4年		・本光寺の栄山和尚が、其寺の北西背面の丸山に、伊吹山の石材を運んで十六羅漢石像を刻み祀ることを願ひ出た。松平忠刻は、郷土の名工に刻ませるといふ条件をつけて許可した。		
1744	延享元年		・松平忠刻は、領内にハゼの木を栽培を奨励し、この時十万本を植えた。昭和26年の島原半島のハゼの木は、30万5千本である。		
1746	延享3年		・富津に大火あり、小浜日比名を富津と改める。		
1747	延享4年		・松平忠刻、御殿修繕を命じた。しかし長く続かぬ。忠刻は、天神様の本像を自ら刻んで、宮の丁に祀つた。これは現在、猛島神社境内に祀られている。この年、多比良の小倉藩池ができていた。		
1749	寛延2年		・5月10日、松平忠刻、参勤交代の上野の途中、防州にて死した。年54歳。嗣子松平忠統年12歳の幼少なる故を以て、宇都宮の戸田熊登守忠統と、その跡を入れ替へられた。天草委任統治は、戸田氏となる。		
1750	寛延3年	・温泉の古湯に、釈迦堂が建てられた			
1754	宝暦4年		・領主戸田忠統隠居し、子の戸田因幡守忠寛嗣ぐ。この年天草統治は、肥後国日田代官に移った。		
1755	宝暦5年	・温泉に護摩堂が建立される			
1758	宝暦8年		・島原半島における、代表的画家、急川雲泉が千々石町に生まれた。		
1759	宝暦9年		・多比良の櫓谷に工事中であった溜池が竣工した。		
1766	明和3年		・この年、7月15日に原の古湯から出た白膏を一箇所に集めて埋め、その上に地蔵尊を刻んでのせ、詣るようになった。此れを背かみ地蔵と言ふ。		
1767	明和4年	・島原藩主戸田忠寛、15年の期限付きで藩内通用の紙幣(藩札)を發行。			
1770	明和7年	・温泉(雲仙)に松尾芭蕉句碑、小浜の俳人達により建立。しかし、芭蕉の栄仙の忌日は見当たらず。			
1775	安永4年	・島原藩主、松平大和守は山田後(4代目加藤小佐衛門)をおき温泉山頂のたけのこ「湯養生、竹林杖杖、ツツジ採取、花折採、野原放火」の禁制札を雲仙の出入口4ヶ所にたてた。	・安永3年6月8日の付けを受けた、戸田因幡守忠寛は、この年の正月、旧領の宇都宮に移り、松平藩宮のやられた。松平氏は、再び島原城主となりつてきた。松平大和守忠統の時である。この年、二歳馬は、春に番所に登録するように令達した。		
1776	安永5年		・小浜の本多親来、力を開拓に注ぎ、広原池の工事を施行せんと下が有家村民の反対を押し、中止のやむなきに至った。		
1779	安永8年		・山田村、三つ島にあった放牧場を温泉山に変更可然旨、千々石の乙名若右衛門建築して、賜福せられた。	・長崎出島、オランダ商館長チニング、第1回目の着任。のち2回来崎。1822年(文政5年)英国で「日本風俗図説」を出版。	
1783	天明3年		・この年、9月天草島は、再び島原藩の委任統治となった。		
1785	天明5年		・松平忠 が、島原焼きを始めたが、水続せず、中止した。		
1788	天明8年		・この年、ハゼの栗の実収益高、銀十貫四百 となった。		
1790	寛政2年	・塚田熊蔵氏、古湯に「原湯」よす屋」を開く	・第1回浦上キリシタンぐれ。(19名が捕らえられた)		
1791	寛政3年		・各地に大に震つ10月8日から毎日3、4回の地震があった。とくに10月26日強い地震が来その後次第に強くなり、11月10日に激震が来て、その後年末まで地震は止むことはなかった。、襲撃で崖崩れが発生し、死者2名		
1792	寛政4年	・1月18日 善賢島居の前から噴火し、温泉地の噴泉が多くなる ・2月8日 穴迫谷から噴火し、溶岩が流れた(新焼) ・2月29日 縁の産噴火、同2月2日飯瀬谷、噴火、3月1日眉山鳴動して土砂が崩れ落ちて、その音大砲のようであった。御前谷には、毒瓦斯が発生した。 ・4月1日 西の別、眉山噴発、大津波を起し安徳村、島原村を埋没し、海に小島ができた。 津波は北は西郷村、南は南有馬村、対岸肥後天草にまで及び島原半島で9,906人、肥後領で4,996人の死死者をだした。しかし、これは確認された数字である。家畜か、家、田畑の被害は、相当なものであった。この噴火で、島原大変肥後連感という言葉ができ、島原の地形が一変し、九十九島などができる。 ・藩主松平大和守、4月20日、巡視中に守山で急死。松平主殿忠があとを継ぎ島原藩主となる。 ・温泉札の原の水田工事完成 ・温泉(雲仙)古湯の湯治場も被害を受け、源泉が冷水となる。	・領主松平忠 は、妻後4月20日守山村で急死したから、7月16日松平主殿頭忠 がついた。天草委任統治は前代と同じ。		
1793	寛政5年	・温泉(雲仙)、一乗院講明寺の僧、島原城下に供養塔を建立。	・松平忠 、島原藩校として、稽古館をたて、師弟をを教育する。		
1800	寛政12年		・島原藩の東園を経営することになった。		
1803	享和3年		・多比良の琴平神社は、この年閉鎖され祀られた。		
1806	文化3年		・この年、志賀神社を島原の善三郎山に建てて高力氏の忠臣、志賀玄藩の霊を祀った。		
1808	文化5年		・ハゼの栗の収益は、銀二万二千貫となった。 ・英艦フェートン号が、突然長崎に入港して乱暴した。奉公松平康英は、切腹、間宮林蔵が權太を探検。		
1811	文化8年		・千々石出身の南画家、雲泉は、この年の11月16日、53歳で肥後国、出雲崎で病死している。		
1812	文化9年	・11月17日、18日の二日間、蕃船の名を受けた測量士伊能忠敬一行が、小浜、温泉方面を測量。小浜では庄屋屋敷に一泊と伝えられている。			
1813	文化10年		・天草の委任統治は、本年を以て免ぜられ、以後天草は、長編代官の支配に入つた。島原藩の都統治委任は、前後を通じて実に64年間であった。		
1814	文化11年		・島原半島の南目、口之津、津波左方面に砂礫キギが輸入され、その栽培、次第に盛んになった。あまりにも盛んいなるので、他の農作物減産の額が生じたから、天保2年には、一時栽培禁止となったことがあった。後には、山間のやせ畑、他の作物の出米のところに限り、栽培許可となった。		
1816	文化13年		・領主、松平忠憲死す。子、松平主殿頭、忠統嗣ぐ。 ・深江村、山頭野岳の雨の降れ続けて、山水が押し出し深江の田畑を流した。世に之を収の水といふ。		
1818	文政元年		・小浜木指出身力士謙(さざなみ 玉恒願乃助)、阿波城主よりのお抱えには応じず。 ・頼山陽、千々石天川屋に一泊。		
1820	文政3年	・温泉(雲仙)の、湯治場湯本「湯本旅館」と改名			
1821	文政4年		・小浜山領の小原広蔵という人、水利事業を起し、産業開発に貢献した。 ・安中村の庄屋、下田吉兵衛という人、4月清水川(一里一名川)開通工事を起し、9月に竣工、給水の若から安中村民を救った。全長50km半(一里十町) ・三浦シオが、茂木ビワの種子を蒔いた。(茂木)		
1823	文政6	・ドイツ人シーボルト来日、江戸参府、帰国後、紀行を骨子として「日本」を著し、その著書に雲仙の地名が現われる。蘭館長チニング「UNZEN」蘭医シーボルト「UNZEN・TAVE」としてヨーロッパに紹介	・小浜出身の大岡、玉垣願乃助が、将軍御前供合に、東の大岡栴戸を破り勝ち名乗りをあげる。当時は、大岡は角界最高位。		
1826	文政9年	・9月、北有馬の北谷の八木一兵衛、温泉札/原に石の島居を奉納建立。(現・月見島居)			
1834	天保5年		・領主、松平忠統、一時廃校となっていた稽古館を再興して、川北温泉を教授に任命した。		
1837	天保8年		・この年の3月、島原町の中山要右衛門(三好信)天保の飢饉の難民を救わんとして、自費を投じ内海、猛島南岸の入江の干拓工事を起し、翌年の天保9年8月、水田約10町を得て完成した。(三好信新田)		
1839	天保10年		・領主、茂洪公のとき、巖屋を本明川に架設		
1840	天保11年		・領主、松平忠統死す。子玉殿忠誠嗣ぐ。丸山作業がこの年鉄砲町で生まれている。		
1842	天保13年		・この年、ハゼの栗の収益は、金貨三千両になった。 ・シーボルトの、高島、實東佐一郎佐之十人扶持を以て島原藩に招かれ、専ら、薬草及医術を司ることとなった。(2月18日藩日誌)		
1843	天保14年		・九月、千々石村小倉に割令不敬事件が起きた。 ・11月26日、龍医者、市川泰村、死体解剖。土田平内これを写生し		

1846	弘化3年		・2月9日、眉山山麓野尻に、薬園を開設し度旨、醸出、許可を受けて開設した。これが、史跡に指定されている現在の薬園跡である。この後、質米佐一郎佐之は、藩士藤島義典と共にこの経営に没頭した。 ・3月、4年前にマシマに落着いた島原町の木太、太吉が帰ってきた。この人の著作にマシマ神話がある。 ・北串山の、岡右衛門が金浜川に石橋を築す。		
1847	弘化4年		・4月6日、領主松平忠誠死し、弟の忠精嗣ぐ。 ・島原町の豊田屋七亦が大手川に、大手広場から上新町に通ずる石橋をかけて、徒歩の不便を救った。		
1849	嘉永2年		・島原藩内に種痘を実施		
1850	嘉永3年	・吉田松陰、小地獄温泉に入る?			
1851	嘉永4		・本木昌造流し込み活字を作る。		
1853	嘉永6	・吉田松陰、小地獄に入る	・椿古館教授、原城記事の筆者、川北温山(重吾)病死す。 ・小浜温泉宿屋6軒あり、 ・ペリーが浦賀に來た。	◆アヲ方使節ペリー浦賀に入港(1853) ◆日米和親条約を調印し、下田、函館を開港(1854)	
1855	安政2	・長崎高島炭坑技師ブラウンが、外人登山禁止の雲仙に登り、上田館に投宿	・島原藩医師市川保定、温泉(雲仙)の湯分し泉質を湯本旅館に揭示。	◆日米修好通商条約調印(1858) ◆安政の大獄(1859)	
1856	安政3		・長崎に海軍伝習所が開かれた。 ・ペリーが、下田に着任した。		
1857	安政4		・11月18日、東郷の経営者、質米佐一郎佐之が病死す。年57歳。本光寺墓地に葬る。墓は本光寺と晴雲寺の中間にある。本光寺墓地の東側中央部にある。 ・第3回浦上ヤリシタンくずれ。 ・長崎修好所ができた。(長崎製鉄所・三菱造船所の前身) ・領主、松平忠清死し、松平忠清嗣ぐ。 ・2歳馬から5歳馬までの登録数は、この年2618頭となった。 ・クラブや、シーボルトが長崎に来る。		
1859	安政6		・3月小浜で大火、延べ焼死は二百戸を数えた。 ・領主、松平忠清死し、養子、松平忠愛嗣ぐ、この年、馬市を開かれた。出馬の馬匹は144頭で、売上高、343両3匁、銀7貫8文であった。(藩日記)この馬市は、慶應3年からは、多比良の魚売川に変更になっている。(藩日記) ・北有馬村谷川の、そも女、孝行のかぞを以て領主に表彰され、受賞された。		
1861	文久元年		・8月13日、佐幕党の豪老、松阪丈左衛門が、島原藩の志士に暗殺さ		
1862	文久2年		・領主、松平忠愛死し、養子、松平忠和嗣ぐ。		
1863	文久3年		・クラブ一原建つ。		
1865	慶応元年		・小浜に工事中の防波堤完成する。大手45間、小手25間である。 ・キヤ石町に、橋岡太が生まれる。 ・小浜に宿屋13軒あり。 ・フランス人宣教師が大浦天主堂を建てた。		
1866	慶応2	・10月1日、長崎駐在の仏国公使から、長崎奉行にあてて私人病者のため、温泉を解放されたいという交渉があったが、不許可となる	・激震があった。富津の中岩崩れた。俗語に「富津サ一、掃リノメ中岩崩れ、五尺の廻リノ木ガ、シャクガ」とあるところから見れば、大分強い地震であったらしい。 ・島原の吉川左右が主催して、工事中であった、島原新湊築港は、この年完成した。	◆ベルギー、イタリア、デンマークと修好通商条約を結ぶ(1866)	
1867	慶応3	・4月9日、長崎在住のイギリス人2名茂木から、小浜を経てが許可なく温泉に登山したので小地獄で之を捕らえて、長崎奉行へ渡送される	・この年、2歳から5歳までの馬の登録は、2949頭である。		
1868	明治元年	・丸塚屋、大和屋旅館開業	・9月8日、明治元年、江戸がと東京となる。		
1869	明治2	・温泉四面宮を因襲神社と改称した。神仏判別制の制により、京泊の本寺、感徳院を一新院に移した。 ・冷田藤の就作が行われた。	・領主、松平忠和、藩將を朝廷に奉進して島原藩知事に命じられた。長崎守が、長崎県となる。 ・長崎に本庁ができた。		
1870	明治3年	・長崎在住のアヲ科科校7人、通訳、ロッキンゴイをつれて湯本旅館に逗留	・本木昌造活版所を設け、銅板活字製造をは始める。 ・国旗が決まった。	◆廃藩置縣(1871) ◆鉄道開通(新橋-横浜間)(1872)	
1871	明治4年		・7月14日、藩知事松平忠和は藩知事を免ぜられ、同時に島原県になったが、11月に長崎県に編入された。 ・断髮令が出された。 ・ロシア教の布教された。 ・徴兵制が交付された。 ・本木昌造、長崎新聞を創刊した。		
1873	明治6年		・1月、山畑、飛子、金浜尋常小学校が創立。4月、小浜尋常小学校創立。 ・長崎県師範学校ができた。		
1875	明治8年		・小浜に長崎より、藩卒(巡査)が派遣され、警察事務を担当。		
1876	明治9年		・この年、一般に種痘を施工することになったが、島原藩では、すでに嘉永2年10月に施行されていたのである。(深澤世紀)		
1877	明治10年	・九州各地の宣教師、在日外人が雲仙に避暑に来るようになる。 ・緑屋ホテル開業。(昭和38年に有明ホテルに併合)	・明治10年の西南の役起こり、西郷隆盛は熊本城を囲み、対岸の金峰山の山火事など望見され、大砲音なども聞こえたことから、島原でも青年の旧土懐念の一部も動揺した。(西南戦争)	◆西南の役起こり(1877)	
1878	明治11年	・新湯温泉開業、湯本旅館八代目「新湯」を開く。 ・雲仙で糠半阿育 ・日本人浴槽の他に、洋人風呂と称する。1人のみ入浴する箱風呂を作り、内外人の混浴を避けたところ外人の滞在客が増える	・11月、北串山戸長制施行		
1879	明治12年		・高来郡を、南北に高来郡に分け、島原町に南高来郡、郡役所を置かれた。これと同時に各町村に戸長役所を置くことになった。 ・9月、小浜警察分署となる。		
1880	明治13年		・9月、小浜戸長制施行される。		
1881	明治14年		・山畑、飛子、金浜三校を合併して、初等科北串小学校を設立した。(飛子、金浜は分校となる) ・小浜、本多親秋(雅号・立谷)塾を開き、門下生千四百名余を余に送り出す。 ・日見峠の国道が開通した。		
1882	明治15年	・この年、初めて温泉(白雲の池周辺)に籠羊を飼育した。			
1883	明治16年	・小地獄に島原の下田源一郎氏純洋式の下田ホテルが新築される(明治39年焼失) ・緑屋ホテルが外人向きに設備を改める	・天気予報が始まった。	◆大政官制度廃止、内閣制度が制定(1885)	
1884	明治17年		・島原半島を一周する、道路が完成し果道に編入。		
1887	明治20年	・岩木屋旅館(水屋、現岩城旅館)開業 ・4月小浜村温泉庚37番地に校舎を建て、小浜村簡易富津小学校の分室と称す。現「雲仙小中学校」の前身が創立開校。 ・上海、香港、南洋方面、及び露國の避暑客の増加によって、雲仙が国際的となる。	・島原半島を一周する1200軒(km)の道路は、明治18年から改修されつづけたが、この年完成し、果道に編入された。 ・5月、富津簡易小学校創設される。		
1888	明治21年		・長崎電灯会社設立。初めて電灯がつく。		
1889	明治22年	・8月、上海の「ハースキヤナ・アリアーニュース」に雲仙の記事が載る。この頃から上海、香港、外人の避暑客の登山者が増える。	・この年、町村制が施行された。4月富津簡易小学校、温泉分教場設置(1893年温泉尋常小学校となる)。6月、小浜村制施行。8月、北串村制施行。長崎制施行される。 ・帝國憲法発布。	◆2月11日、大日本帝國憲法発布(1889) ◆市制、町村制施行(1889)	
1890	明治23年	・温泉里道開通 ・温泉ホテル(のちの雲仙ホテル)が開業。	・富津簡易小学校が富津尋常小学校となる。	◆第1回衆議院議員選挙(1890)	
1891	明治24年	・小浜の本多西男、岡村小高竹次郎に委嘱して、観光土産品として「湯せんべい」を試製せしめた之が小浜「雲仙湯せんべい」の元祖である。	・1月小浜登記所開庁される。		
1892	明治25年	・南高来郡長五代金井俊行氏「原城郡蘇乱記」を著す。翌年「温泉案内記」を発売。	・飛子、金浜分校が統合され、菜切尋常小学校が開設される。	◆7月25日、日清戦争はじまる(1892)	
1893	明治26年	・富津尋常小学校分校が、12月、温泉尋常小学校となる ・新湯の亀ノ屋旅館(現、新湯ホテル)が外人の専門ホテルとなる(現・新湯ホテル) ・当時の、雲仙の人口:人口312人、戸数65戸			
1894	明治27年		・日清戦争が始まる。翌年講話。 ・郷部百太郎、眉山庵のかまどを漆の川竹山に設けたが熱量を多く要するの引ききわず明治29年に中止される。		
1895	明治28年	・日清戦争後、ハルビン、ウラジオストックのロシア人避暑客増加(ロシア語が広まる) ・古湯に「加勢屋旅館」(現・かせや旅館)が営業開始。	・山田村、大崎屋、干拓工事を起こす。 ・本多西男、自費をもって小浜海岸埋立を起こす。 ・3月26日、小浜郵便電信局、電信事務取扱開始 ・小浜-雲仙間登山車道建設が始まる。 ・口之津港が、この年貿易港と指定された。 ・長崎と長身間にはじめて汽車が走った。		
1896	明治29年	・温泉の新湯が開通される(旅館ができた)			
1897	明治30年	・高木ホテル開業(昭和20年頃廃業、初代経営者は英国人)	・長崎と長身間にはじめて汽車が走った。		
1898	明治31年	・温泉一乗院の名残の一つであった釈迦堂が焼失し、護摩堂も類焼、仏像など一切焼失してしまった。 ・温泉尋常小学校、湯の里320番地に校舎を改築移転。	・4月、小浜尋常高等小学校となる。本指尋常小学校創設される。		
1899	明治32年	・温泉郵便局はこの年開局された。 ・ホテルが経営開始し、外人避暑客が増加 ・季節(夏季)電信取扱所が置かれる(明治38、二等郵便局となる)	・赤戸無着村長、温泉里道を開き、内藤昌作が初めてホテルを経営し、次に木村亀十が経営している。 ・長崎市内に電話開通する。		
1900	明治33年	・坂東国護神社1200年祭 ・前年設置の電信取り扱「夏期」電信取扱所が置かれた。	・長崎島立島原中学校が5月に開校された。島原田藩宅跡の寄付を得て建てたものである。この建設の功労者は当時の南高来郡長、松原英徳である。	◆2月10日 日露戦争はじまる(1904)	
1901	明治33年		・北串、飛子、金浜尋常小学校が独立校となる。		
1904	明治37年	・「有明ホテル」開業	・日露戦争が起こる。翌年講和。8月31日橋岡太死す。 ・ロシア人避暑客激減。 ・小浜の中村周作、小浜焼きを始めたが、長続きせず中止。		

1905	明治38年	<ul style="list-style-type: none"> 5月1日温泉郵便局、島原半島唯一の2等郵便局となる。 ドイツ、ベルツ博士登山、県当局に県営保養温泉公園設置を建言 温泉尋常小学校、温泉庚377番地へ校舎を改装移転 		
1906	明治39年	<ul style="list-style-type: none"> 亡命ロシア人、ニコライ・ラッセル氏、雲仙で夏期療養所を開く。 夏、小地獄「下田ホテル」失火で焼失。 避暑客ジェイムス・マックイ氏、雲仙で客死(湯本旅館) 		
1907	明治40年	<ul style="list-style-type: none"> 旅館徳島屋、勇屋旅館「日の出ホテル」開業。 島原警察署小浜分署雲仙巡查駐在所開設 	<ul style="list-style-type: none"> 小浜の上水道が完成した。(湯町、刈水地域) 小浜の本多牧水、小浜橋きを復興して、大正末期まで使っていたが、その後中止された。 小浜～茂木間に汽船が往復、船賃65銭 	
1908	明治41年	<ul style="list-style-type: none"> 雲仙気象観測所開設。(雲仙尋常小学校に一日3回の気象観測と温泉の随時観測を委託) 「新湯ホテル」開業 	<ul style="list-style-type: none"> 5月、島原鉄道創立総会、初代社長に植木元太郎氏 	
1909	明治42年	<ul style="list-style-type: none"> 9月「登山記念」温泉小浜案内記「中川親善発行される。 「湯の里(古湯)」「北温泉」この温泉場は、戸数三十余あり、旅館は、「湯本」「萬屋」「普賢屋」「和泉屋」「勇屋」「上田屋」「喜久屋」等八軒あり、「萬屋」は、和洋両方、「富貴屋」は、全く洋風、その他雑貨店、飲食屋、牛乳屋、水店等あり。 「湯の里」の温泉場は、農圃の項にして、近頃は勿論、遠くは熊本、佐賀より、入浴客あり。長崎地方及び外国人等は、多くは夏期避暑の為に來泊する例とし、秋霜前山を染めたる頃は、浴客甚だ稀にして、三冬積雪の間は殆ど其の姿を見ず。 	<ul style="list-style-type: none"> 「新湯温泉」「中泉」とも呼ぶ。浴場の広さは、三坪の湯池四箇あり、男女及上下の別あり、入浴料は古湯と同様なり、(上は、一浴三銭、下は並で一銭、泉質は変わらず)旅館は、「温泉ホテル」「九州ホテル」「有明ホテル」「新湯ホテル」「出雲屋ホテル」「上田屋」「萬屋」等にして、出雲屋は、和洋兼業、上田屋、萬屋は和洋即ち木賃宿、他は悉く洋風ホテルにして室内の設備、器具、複器、食品等皆欧米人の嗜好に當す。その他、雑貨店、牛乳屋、西洋洗濯屋、パン屋、理髮店、あり。温泉郵便局(二等)にして公衆電報、小浜警察分署の巡查駐在所は、「高来ホテル」の西隣にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 小地獄温泉は、新湯より、南に溪流を下り、山麓を横切る六町、ここを小地獄「南温泉」。西北に山を背負い、他の二温泉より暖か。此の湯の湯質は、北温泉、新湯に比べて、少し赤らみなり。旅館は「緑屋」「小湯館」「勇屋」「柳屋」等八軒あり。緑屋は、専ら洋風のホテルを営み、他は木賃宿なり。尚他に「下田ホテル」と稱する温泉ホテルの中の開山として規模宏大なるものありが、不幸39年の夏火災して焼失、今はその残骸を残す。 小浜水力電気会社創立
1910	明治43年	<ul style="list-style-type: none"> 3月、内務大臣より官有地を公園敷に充用する件につき認可(1907年6月11日) 4月1日我が国初の「県営雲仙公園」が開設(温泉公園取組規則が定められる)面積367ha。(雲仙岳) 8月県雲仙公園事務所設置(民家借受)管理員1名、園丁1名 6月、小浜から雲仙新湯間の鉄道道路改良、完成。(5名乗り)乗合自動車が発走(運賃一円10銭) 英国人ジョン・フィンドレー氏此車のドライバー(車名)で雲仙に来る。 雲仙、小浜に電灯がともる 新湯から千々石木場に至る千々石線道路が3年契約で着工された。 雲仙巡查駐在所設置、夏期は県より英語に通じる者を選び、外国人避暑客の便を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 千々石水力発電所が発電を開始 小浜町の海岸埋め立て五千坪築工 	
1911	明治44年	<ul style="list-style-type: none"> 温泉(雲仙)県委託公園計画担当、松村博士、温泉岳、地獄、妙見岳、仁田峠、別所、ゴルフ場、テニスコート建設計画地を視察。 		
1912	大正1年	<ul style="list-style-type: none"> 雲仙池の原共用地と湯の里の私有地に地上権が設定される。 小浜村有志、自動車屋開業。料金は、小浜～雲仙間1円20銭、小浜～愛野間70銭、小浜～鎌早間1円20銭、小浜～口之津間80銭。 		◆第5回オリンピック(於ストックホルム)日本初参加(1912)
1913	大正2年	<ul style="list-style-type: none"> 県営ゴルフ場(雲仙池の原、9ホール)開設 県営テニスコート開設(湯の里) 公園事務所棟に「雲仙旅館」開設、木造平屋138.15坪、外国人避暑客の日曜日礼拝、集会所、ダンスパーティ、映画会、ビリヤード、酒場、ビアなど配備。 小浜、愛野自動車開始 小浜～茂木間航路開始 	<ul style="list-style-type: none"> 鎌早～島原港間42.3km島原鉄道開通が、9月28日行われた。 島原鉄道は、植木元太郎の主導を持って、明治41年5月5日創立総会を行い、明治43年11月起工を命じ、大正2年9月28日に開通したのである。 小浜～茂木間に定期連絡船就航 	
1914	大正3年	<ul style="list-style-type: none"> 雲仙鉄道遊覧再開に着工。 雲仙宿内宿有林330町歩にわたって、ヒノキ49万本、マツ60万本が植林される。 此のときの前後に雲仙で「湯せんべい」が作られ創める。 	<ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦が始まる。(1914大正3年～1918大正7年) 	◆7月28日 第一次世界大戦はじまる(1914)
1915	大正4年	<ul style="list-style-type: none"> 県温泉公園事務所新築、二階の読書室には休憩室(カード室、チェス、カード、新聞雑誌閲覧室) 7月 農商務省より公園地周囲の国有林(網走、矢岳、上菜園、桜橋、湯の里の一部)を県公園地に譲渡される 「富貴屋旅館」開業 	<ul style="list-style-type: none"> 小浜郵便局電話交換業務開始。 長崎茨町と浦上間に電車が開通した。 	
1916	大正5年	<ul style="list-style-type: none"> 千々石雲仙間自動車道路が完成 雲仙英園庵神社が「車泉神社」と改名され2月8日県社となる。2月22日奉告祭が執行された。 普賢、観音道路改修、登山者の利便を図る。 当時雲仙・小浜に旅館72、ホテル9 		
1917	大正6年	<ul style="list-style-type: none"> 雲仙の釈迦堂の再建工事は、この年完成したので、大正3年別荘であった丈六の仏像を堂宇に納め、開元式を行った。(大仏開帳) 「九州ホテル」、「玉屋旅館」開業 	<ul style="list-style-type: none"> 山田村の大崎郷が、着手した。山田海平拓工事が完成した。 	
1918	大正7年	<ul style="list-style-type: none"> 7月「ジャ」ンワーリス・ビューローの夏季温泉出張所が公園事務所内に開設される (利用料:日本人は、農圃期の湯治、外国人は夏季の避暑) 		◆11月11日 第一次世界大戦終結(1919)
1919	大正8年	<ul style="list-style-type: none"> 雲仙に、芥川龍之介、菊池寛が来仙 		
1920	大正9年	<ul style="list-style-type: none"> 吉井勇来仙・斎藤茂吉来仙。 斎藤茂吉氏、7月～8月雲仙「よろず屋旅館」に、10月に小浜「柳川旅館」に滞在。 韓国の方農政府樹立により、帝政時代の人々が安全を求め、雲仙へ、雲仙登山外国人中、過半数をロシア人が占める。富貴屋ホテルなどは、露国人専用のホテルであったといわれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 小浜に温泉鉄道株式会社が発立。 	◆第1回回調調査実施(1920)
1921	大正10年	<ul style="list-style-type: none"> 8月 第一回回調アセス大会開催(大坂、毎日新聞社開催) 内務省衛生局が国立公園候補地として雲仙の調査に着手 	<ul style="list-style-type: none"> 小浜尋常小学校を光泉寺裏(現公民館)より、旧小学校地(現運動場)に移転す。 この年の前後、小浜で「一政会」(現・小浜温泉観光協会の前身)が発足。 	
1922	大正11年	<ul style="list-style-type: none"> 雲仙・小浜間に定期バスが走る 島原、雲仙間に自動車道路が完成 大恐慌と露政府の安定によってロシア人客の減少 	<ul style="list-style-type: none"> 4月21日、口之津鉄道株式会社島原～雲間第1期工事完成し、運送を開始した。 12月島原半島全域に大なる地震あり、余震10日くらい続き、平穏となった。震源地は、加津佐、南有馬方面であった。大森博士により、地震調査が行われた。 西 金藏氏 十三代南高来郡郡長に就任 	
1923	大正12年	<ul style="list-style-type: none"> 1月1日 網走山に「気象観測所」が建設される 雲仙に街灯が点灯される 日本郵船による長崎～上海丸の長崎・上海日華航路が始まる。長崎～上海道2便、1昼夜で長崎・上海間、上海横間などの欧米人の避暑地、保養地、ロシア人の避暑地 網走山の種羊牧場、農商務省種羊飼育場に指定。 	<ul style="list-style-type: none"> 関東地方に大地震起こる。 5月9日小浜鉄道の愛野、千々石間が開通。 長崎と上海間定期航路開設 日見シシテル開通 	◆9月1日 関東大地震起こる(1923)
1924	大正13年	<ul style="list-style-type: none"> 小浜町制施行 ・インの詩人「ターゲル」来仙、訪日は3日目で来仙は2回目の時、宿舎は九州ホテル 小浜温泉道路を自動車道として改修完成された。 佐藤博士により雲仙地質調査が行われた。 雲仙～雲間の間自動車道路が完成 此の当時、雲仙ゴルフ場の利用料は、リンクス入場料一日20銭、七日券1円20銭、十四日券2円、用具使用料一日50銭。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月1日、島原村、島原町、津町を合併して島原町とした。初代町長、西金藏である。 小浜村、4月1日に町政施行、小浜町となる。初代町長は、本多孝親である。 口之津鉄道に三井支店は、この年3月に移転した。 12月9日、多比良、土庫の境、浜の田川の「らすりのり」は、天然記念物として指定された。 	
1925	大正14年	<ul style="list-style-type: none"> 秩父宮殿下普賢岳御登山 旅館、「芳仙館」開業 	<ul style="list-style-type: none"> ラジオ放送開始。 	
1926	大正15年	<ul style="list-style-type: none"> 小浜、雲仙間の自動車道路が完成される。 乗り合い自動車運賃(千々石～雲仙間2円、茂木(長崎)～小浜間船賃3等1円)。 千々石、田代原湯治の池の遊道路完成 「雲仙ホテル」開業 	<ul style="list-style-type: none"> 7月1日、郡制はは廃止となった。そして県の直轄となり南高来郡地方事務所が置かれた。 口之津鉄道、雲崎～南有馬の第2期工事完成開通した。 6月小浜警察署となる。 小浜、富津、温泉、木指、北野の各校に青年訓練所を併設した。 12月9日、多比良、土庫の境、浜の田川の「らすりのり」は、天然記念物として指定された。 	◆日本放送協会設立(1926)
1927	昭和2年	<ul style="list-style-type: none"> 雲仙岳が日本新八景「山岳部門で第一位(大阪毎日及び東京日々新聞社発表、鉄道省後援)第2位長野県御嶽山を176万票引き離し、191万8千余票を以って日本一となる。 この頃、外人客2万人をこえる・生田藤介取材来仙 吾介来仙、高松宮下御来仙 作家「生田藤介」来仙。 此の頃、小浜・雲仙で外国人客が2万人を超える。 	<ul style="list-style-type: none"> 小浜鉄道 小浜～千々石間5里開通。 1月1日、東有家村、町制施行、4月1日、西有家村、町制施行、西有家村となる。 10月31日、南有馬町原城跡、史跡として仮指定を受けた。これと同時に、島原半島の各村村にある吉利支丹墓碑は、大い指定を受け保護されることとなった。 町営畜産場を設置する。 小浜警察署庁舎改装す。 9月暴風雨襲来、小浜温泉被害あり。 	
1928	昭和3年	<ul style="list-style-type: none"> 3月31日、雲仙岳が当時の史跡名勝天然記念物法により、名勝地(2,600ha)に指定される。同時に普賢岳紅葉樹林、地獄地帯シロクワン・群落、原生沼野植物群落、野島イヌツグ群落、池の原ミヤマネシマ群落が天然記念物に指定される。及び加津佐の江戸御藏などがある。 温泉郵便局通年取扱局となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1月1日、加津佐村、4月1日、口之津村、11月1日、千々石村、各町政施行で町となる。 口之津鉄道、南有馬～加津佐間36.2km全通した。 小浜町簡易水道を拡張改修し、完全な水道となる。 	
1929	昭和4年	<ul style="list-style-type: none"> 4月9日新日本八景投票、雲仙岳第1位 別所「冷水プール」長さ23M、幅16mができた。 新湯温泉に簡易水道(泉宮)ができた。 能富藤峰氏、喜納治五郎氏、来仙 「百崎新館」開業 夜間照明を施した「ローンガーデン」開園 	<ul style="list-style-type: none"> 世界全体が不景気となる。世界恐慌 国立公園協会発足・温泉協会発足 	
1930	昭和5年	<ul style="list-style-type: none"> 県知事名で国立公園指定の請願書を内務大臣に提出 県下各地で国立公園指定の陳情がなされる 札の原、瀨戸の池間の自動車道路が完成 島原鉄道がバ3台、タクラー2台で島原～鎌早間の定期運行 秩父宮、同妃殿下御来仙・8月 雲仙国際観光協会設立 雲仙宮頂の発見(長崎市出身西岡水樹作詞) 	<ul style="list-style-type: none"> 7月28日、秩父宮殿下、妃殿下と共に秩父が浦に御出あった。これが二度目である。 米国トーマス・マックツ主催の世界一周観光船、フランコニア号(2万トン)が長崎に入港し、乗客が来仙した。 当時の小浜には、「本湯」「新湯」「天徳湯」「明治湯」「常磐湯」「入徳湯」「開 湯」の八温泉があった。 	
1931	昭和6年	<ul style="list-style-type: none"> 新湯と小地獄間に自動車道路が開通した。 大町道場が完成した。 雲仙消防組合が結成された。 雲仙乗馬協会結成 温泉紙楽館隣に、「温泉物産館」が開館 諏訪の池周辺一帯を公園附屬地として地上権を設定 	<ul style="list-style-type: none"> 日本画家の伊藤深水面伯来仙 	◆9月18日 満州事変起こる(1931)

1932	昭和7年	・国立公園候補地に選定される(他11ヶ所) ・5月雲仙物産館が開館 ・旅館ホテル25軒 総定員1400人 有明、緑屋、温泉、新潟、高木、九州、日の出、喜喜、勇雄、若松屋、宮崎、衣笠、萬歳、湯木、加勢屋、和泉屋、喜久屋、氷屋、福島屋、上田屋、東洋館、柳屋、宝屋、丸登屋、大和屋	・作家野上弥生子さん来仙		◆5.15時間起こる(1932)		
1933	昭和8年	・温泉大弓場・3ヶ所雲仙国立公園協会設立 ・7月白雲の池キャンプ場開設 ・東伏見宮大妃殿下、高松宮妃殿下御来仙 ・小浜鉄道と温泉鉄道が合併「雲仙鉄道」に名称変更した。	・NHK長崎放送局が開張した。 ・10月「温泉郵便局」が「雲仙郵便局」と改称		◆国際連盟脱退(1933)		
1934	昭和9年	・3月16日 国立公園に指定される(同時に、瀬戸内海霧島も指定される) ・温泉公園の名称を正式に雲仙公園と変更と告示があった。 ・県営バスが長崎と雲仙の間に開通(県営バス発足) ・国際観光産業博覧会の第二会場となる ・長崎大学医学部の夏季診療所が開張される ・「雲仙遊園」発足(昭和20年まで存続)	・長崎本線が開通した。 ・5月種物学博覧会 牧野富三郎来仙 ・詩人野口雨村氏来仙 ・画家石井柏亭氏来仙「雲仙春」を描く ・此の頃、「雲仙観光旅館組合」(組合長・宮崎亀地代氏)「雲仙旅館組合」(組合長・柴田勝秋氏)「雲仙ホテル組合」(組合長・豊田清治氏)が結成。				
1935	昭和10年	・雲仙観光ホテルが落成し、県営ホテルとして開業(後に民間となる) ・北原白秋来仙	・金浜、飛子専常小学校廃校、北中専常小学校の分教場となる。				
1936	昭和11年	・11月仁田峠自動車有料道路完成 ・春旅館開業	・「佐世保商業銀行」が雲仙物産館内で開行 ・作家吉屋信子来仙		◆2.26事件起こる(1936)		
1937	昭和12年	・4月1日、「雲仙記念館」が竣工した。(国立公園指定記念して) ・県観光連合会(現観光連盟)の創立総会が記念館で挙行された。 ・4月「温泉浴測候所」が設置される ・雲仙国立公園協会は国立公園観光連合会と改称される(現観光連盟の前身) ・仁田峠有料自動車専用道路の切符売り場が設置された。 ・5月「オートクラブ」が来仙(28日に長崎、29日雲仙に来仙し、雲仙ホテルに宿泊)	・2月11日、多比良村町制施行、町となる。 ・7月、日支実務委員会内青年多数派召集された。 ・12月21日、口之津～天草、鬼池間に口之津鉄道株式会社の軌道が開かれた。 ・綿糸の飼育を奨励し、大三東村に、初めて綿糸40頭が来た。 ・県営バス小浜営業所を開張。		◆7月3日 盧溝橋事件起こる(1937) ◆国家総動員法制定(1938)		
1938	昭和13年	・雲仙鉄道解散(自家用自動車の増加による収益悪化が原因) ・雲仙に雲仙焼きが始まった。菊田百香斎 ・仁田峠に、大智禪師の記念日が建立された。 ・白雲池道路が開工した。	・さきに、仮指定を受けていた南島原の原城跡は、5月30日日本指定を受けた。 ・口之津鉄道が、口之津～鬼池間に軌道開張、営業開始 ・7月23日に小浜鉄道廃止となる。 ・羽介石総裁夫妻が小浜温泉に宿泊した。 ・3月、イタワフアンシ小笠原日載書使節来仙 ・10月ドイツ・ヒトラーユーゲント団員訪青少年団来仙				
1939	昭和14年	・仁田峠展望所が開工した。完成 ・11月1日、雲仙浴測候所となる。 ・生田郷介護棟、一乗院境内に建立	・12月、傷痍軍人小浜温泉療養所発足(定床75)。		◆9月3日 第2次世界大戦起こる(1939) ◆日独伊三国軍事同盟(1940)		
1940	昭和15年	・昭和9年に、結成の3組合「雲仙旅館組合」「雲仙ホテル組合」の2つが統合合併	・4月1日、島原町に隣村、杉谷村、安中村、を併合して市政を施行した。面積40万平方メートル、人口3万余であった。初代市長植木元太郎。				
1941	昭和16年	・雲仙小浜自動車と県営バスが合併、長崎から路線がつながる。 ・県営バス雲仙出張所開設。 ・雲仙普通郵便局が開設される。 ・雲仙専常小学校が、小浜町雲仙国民学校になる。 ・旅館「松本屋」開業	・真珠湾攻撃、太平洋戦争が起こる(1941-1945)。 ・多比良町に諏訪の池溜池が出来た。 ・島原半島では、輸年は300頭を突破した。 ・小浜に製塩業が始まる。(製塩工場40軒、年間10797トンを生産)。 ・飛子分校廃校となる。		◆12月8日 米・英に対し宣戦布告、太平洋戦争開始(真珠湾攻撃)(1941)		
1942	昭和17年	・三笠宮殿下御来仙	・鎌早銀行、小浜支店を合併し18銀行小浜支店となる。 ・関門トンネル開通した。 ・大村が市となる。				
1943	昭和18年	・雲仙の各ホテル(雲仙観光、九州、有明、雲仙、新潟、緑屋、高木)が佐世保保健衛生院となり、一般の営業を休止 ・雲仙乗組クラブの町も戦争で供出され休業、ゴルフ場も接収され、滑走路をつり飛行訓練、滑走路以外では芝生ははき取られ、芋畑などを栽培。 ・県で委託管理中の雲仙、小浜自動車所有の営業権及びその全線を県営バスが買収した。 ・長崎バス、島原～雲仙間を走る。	・4月2日、口之津鉄道を島原鉄道に合併した。これで半島統一路線は完成した。(線路1+加圧区間は78km半である。) ・自動車はまだ一般化していない状態で、旅館・ホテルからのお客様の求めに応じて、白雲の池、薬師の池、高岩山、仁田峠、普賢岳などへ出向いていた。		◆8月15日 終戦(1945)		
1944	昭和19年	・県営雲仙ゴルフ場を陸軍が接収。滑走路が作られ、複葉機の飛行訓練が始まった。また、滑走路以外のコースは芝をはき取り、肥料増産のため芋畑などを栽培。 ・普賢岳山頂に、電波探知機(レーダー)が備え付けられた。一個中隊程度の情報通信部隊が常駐。仁田峠にいた部隊を「雲隊」温泉街にいた部隊を「仙隊」と称していた。	・2月、陸軍の九七式双発戦闘機が、軍機とともに千ヶ石地区山中に墜落。乗員9名の全員が死亡。 ・小浜町役場を本町北に移転改築。 ・小浜保健所、厚生大臣より設立認可。				
1945	昭和20年	・「東洋館」開業 ・米軍駐留軍により、県有地(ゴルフ場)及び各ホテルが接収される	・8月15日、ポツダム宣言受諾、無条件降伏。9月2日調印。 ・長崎に原爆投下8月9日、午前11時2分。 ・小浜町田の中に小浜保健所として開設。				
1946	昭和21年	・佐世保基地進駐軍の来賓、雲仙の各ホテル(昭和18年、日本海軍に接収されたホテルと同じ)テニスコート、ゴルフ場、弓道場などを接収 ・12月県営バス、雲仙観光バスを6年ぶり復活。	・温泉地区取り締まり規制が施工され温泉掘削は県知事許可となる。				
1947	昭和22年	・4月1日、6、3割により、中学校創立(小浜・雲仙・北中) ・雲仙国民学校が小浜町立雲仙小学校と改称	・10月1日、島原半島観光貿易連盟創立総会。観光島原半島の宣伝に乗り出す。 ・4月24日、小浜温泉湯町で大火。(旅館13軒、一般住家30軒焼く。 ・長崎簡易裁判所開庁される。(島原簡易裁判所併合) ・日本国憲法が施行された。				
1948	昭和23年	・GHQ(総司令部)顧問、米国立公園局のリッチー氏が日本の制度、施設利用調査のため来仙 ・雲仙～鎌早間を路線が再開した。 ・7月温泉法が公布され、8月に施行された。	・6月9日、小浜町協同組合設立、北中半島農業協同組合設立。 ・3月7日、小浜町警察署となる。				
1949	昭和24年	・5月25日、午後4時天皇陛下島原御幸、雲仙に登山。5月26日、雲仙に滞在。5月27日出発愛野駅を経て熊本へ向かう。 ・国立公園指定15周年記念式典。観覧客も呼ばれた。 ・島原鉄道バス、雲仙に営業所を開張。 ・4月、昭和15年合併の2組合が「雲仙旅館ホテル組合」(組合長・内田繁次氏)となる。 ・「一の谷」旅館開業	・愛野村は、8月1日町政移行、町となる。 ・6月1日、県立口加高校小浜分校設立認可。 ・2月、北中漁業組合設立、小浜町漁業組合設立。 ・長崎大学が開校。				
1950	昭和25年	・第6回「本ニネズミ大会」が雲仙で開催される ・県有施設ゴルフ場、テニスコート、各ホテル等の米駐留軍による接収解除 ・雲仙に硫黄鉄問題が起きる。 ・7月「自然に親しむ運動」が始まる ・旧八幡地蔵の硫黄鉄の採掘が許可される。	・1月に、三合村亀の甲に吉利支丹霊神を島原半島観光貿易連盟の手で発見。(かまぼこ屋、伏見葛碑で、慶應8年12月20日に死んだ人のものである。数名は欠損して不明) ・5月文化財保護法制定 ・この年最後に「小浜温泉観光協会」が設立された。		◆5月26日 国土総合開発法制定(1950) ◆朝鮮戦争起こる(1950)		
1951	昭和26年	・5月8日公開調議決定 ・4月「国際テニス大会」が開催される(終戦後第1回) ・冬季の名物「凍り豆腐」が作られたのは、この頃まで。 ・2月15日、相当強い水揺動の地震があった。 ・ハワイ二世観光団、雲仙に続々と来る。 ・4月厚生省所属、国立小浜療養所となる。(定員90) ・4月、「雲仙旅館ホテル組合」組合長に石田 次氏 ・「雲仙ユースクラブ」が小浜町で開業	・島原半島に於ける、ハゼの木は30万5千本を突破した。 ・4月、島原市を物産「昭和福」を天竺記念館に指定申請した。 ・小浜町北町8-9に小浜保健所併合新築移転する。 ・旧八幡地蔵で硫黄鉄の採掘が始まったが、その採掘禁止区域に指定。		◆9月8日 サンフランシスコ平和条約調印(1951)		
1952	昭和27年	・3月文化財保護法により、雲仙は富士山とともに「特別名勝地」に格上げ指定される。(雲仙)全国の中で、「特別名勝」に指定されたのは、西の雲仙と東の富士山の二つである。 ・4月国が鳥獣保護区を指定(毎年5月のバードウォッチングツアーには、各地から探鳥に来仙する) ・池の原園地の休憩所竣工 ・白雲の池、野宮湯湯湯水道及び新潟湯温泉湯湯水道が改善整備された。 ・大映映画「長崎の歌は忘れじ」の雲仙ロケ ・作家伊藤整氏来仙	・小浜での、温泉熱利用製塩年間生産量が4万吨を超えた。		◆NHK、日本テレビがテレビ放送開始(1953)		
1953	昭和28年	・新潟駐車場が開工した。	・4月6日～8日、町制30周年記念式典祝賀行事を行う。 ・1月1日、小浜地区警察署となる。 ・NHKテレビ放送開始。				
1954	昭和29年	・2月松竹映画「君の名は」のロケがはじまる。真知子岩が誕生。 ・仁田峠の歌碑が仁田峠自治会に建設される。(高原に「マヤネツリ」マヤ、むらがり咲きで、小島飛ぶなり) ・4月「雲仙観光協会」が設立。初代会長は七條達男氏就任。「雲仙旅館ホテル組合」組合長も兼務。 ・5月県営バス、長崎・雲仙間定期遊覧バスの運行を開始 ・長崎バス有線バス「雲仙線」が運行開始 ・国立公園指定20周年記念式典 ・雲仙子供観光協会が結成された。 ・東洋館焼失、直ちに再建される ・仁田峠駐車場拡張工事が竣工した。仁田峠有料道路の待避所10箇所、土留、護垣工事3箇所が竣工。 ・第1回、全九州号道大会が開かれた。	・7月1日、長崎県小浜警察署となる。 ・福江が市になった。 ・9月、雲仙賛歌(杉山火作詞、信時潔作曲) ・第一回「全九州雲仙号道大会」開催 ・小浜町出身政治家、松永 東氏 代45代衆議院議員に就任				
1955	昭和30年	・高浜虚子来仙 ・別所の水泳プール廃止 ・雲仙、島原、小浜、ゴルフクラブが発足した。雲仙ゴルフクラブ創立総会が開催された。 ・雲仙婦人会発足 ・国際文化会館が建つ。 ・叶屋旅館、開業	・小浜町、北中山村を統合 ・小浜町湯津地区に簡易水道完成 ・島原市作家、宮崎謙平氏雲仙で創作活動 ・湯元旅館前に「吉井勇氏」歌碑が立つ				

1956	昭和31年	<ul style="list-style-type: none"> 6月15日、小浜温泉とともに国民保養温泉地に指定される 7月天草諸島(12,500ha)をあわせ雲仙天草国立公園となる 9月仁田峠循環自動車道路完成 厚生省国立公園管理員、駐在 国民宿舎仙郷荘、開業 	<ul style="list-style-type: none"> 西海橋が完成した。 	◆日本の国連加盟決まる(1956)
1957	昭和32年	<ul style="list-style-type: none"> 5月24日、日本道路公団により、小浜雲仙間の有料道路完成 7月仁田峠妙見岳間ロープウェイ完成 温泉集団施設地区として指定された。 雲仙に上水道が完成 10月1日集団施設地区区域及び計画決定される。 吉瀬駐車場が竣工した。 仁田峠展望台が拡張された。 9月1日、雲仙上水道完成する。 旅館・ホテル23軒、総定員1500人 旅館「万福屋」開業、(昭和40年廃業) 旅館「上田屋」開業(昭和40年廃業、のちに専売公社) 	<ul style="list-style-type: none"> 石川靖峰氏、繁田(ひやくかんさい)より黨を譲り受け「雲仙虎」を創める。 7月謙早大水害 	
1958	昭和33年	<ul style="list-style-type: none"> 雲仙娯楽館「老朽化のため撤去 近代的ゴルフハウスが完成した。 新橋へ小地蔵間の自動車道が完成した。 ゴルフ場3ホール拡張工事に着手した。 旅館「普賢荘」開業、のち「星館」へ「ホテル山水」になる 	<ul style="list-style-type: none"> 1月、小浜高校竣工(北野8400坪) 4月1日、長崎県立小浜高校に改名変更 有明海自動車線送船航路(多比良～長洲) 長崎発着が始まる。 県営雲仙ゴルフ場に「高橋虚子歌碑」が建つ 	
1959	昭和34年	<ul style="list-style-type: none"> 11月雲仙公園事務所改築、県営国民宿舎、落成 県営国民宿舎「有隣荘」が竣工した。(昭和63年廃業) 経営バス雲仙営業所が二階建てコンクリート 仁田峠循環道路「池田可賀川柳碑」が建つ 	<ul style="list-style-type: none"> 1月23日、富津、木津バス路線開通。 3月、北中、富津、市外電話の集中工完成 北中保育所落成 小浜9月17日、14号台風、高潮発生、町全域に冠水被災。 木村空港が完成した。 	
1960	昭和35年	<ul style="list-style-type: none"> 3月小地蔵・宝原間の道路完工 8月日本道路公団による小浜～雲仙～島原間の有料完全舗装道路完成 ノベル賞受賞のパール・バック来仙、小浜温泉に44日間滞在。 小浜での滞在は「一角桜ホテル」の間、雲仙にも足を運んでいた。 白雲の池野営場が拡張された。 池の原～至原の道路延長工事に着手した。(420、80m) 「ホテル松の井」開業(昭和55年廃業) 	<ul style="list-style-type: none"> 3月31日、塩業整備法により、小浜温泉の製塩業終了。 4月1日、長崎県立小浜高校に改名変更 此の当時、雲仙は新婚旅行のメッカで、バスに一人では取っかきい状態だった。 	
1961	昭和36年	<ul style="list-style-type: none"> 2月興和銀行小浜出張所開設(38年4月雲仙支店となる) 3月ゴルフ場の拡張工事(ショートコース)完成 4月24日、天皇、皇后両陛下が御来仙 8月十八銀行小浜支店湯の里出張所開設(38年4月雲仙支店となる) 雲仙小中学校校舎、礼の原に移転される。 九州ホテル前にインドの詩人「タゴール」を建立 一乗院跡地の「生田嬬歌碑」を雲仙地蔵へ移転 	<ul style="list-style-type: none"> 4月国立小浜病院に改称。 6月7日、県交通小浜営業所新築。 8月1日、商工会設立。 	
1962	昭和37年	<ul style="list-style-type: none"> 鳥鉄バスが口之津、雲仙、有家から長崎行きの運行を開始 池の原、宝原間道路開通 白雲の池キャンプ場に、セントラルロッジ、和式ケビン10棟等の施設が完成した。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月国立小浜病院に改称。 6月7日、県交通小浜営業所新築。 8月1日、商工会設立。 10月に、北野簡易水道完成。 4月8日、県立小浜高校全日制第1回入学。 10月、小浜海岸工事竣工。 福江市大火 	<ul style="list-style-type: none"> ◆6月10日 新産業都市建設促進法制定(1962) ◆10月 全国総合開発計画決定(1962)
1963	昭和38年	<ul style="list-style-type: none"> 雲仙国際観光会館竣工 3月仁田峠循環道路右回りに変更される。 仁田道路管理事務所新築工事竣工。 10月県営バスが長崎空港・雲仙間直行バスの運行を開始 池の原～宝原間の道路が竣工した。(1600、50m) 雲仙～田代原間の道路工事竣工。(延長4740m) 九州ホテル本館工事中、熱湯、蒸気噴出事故起こる。 別所ダム工事竣工 雲仙保育園開園(初代園長に七條サヤ氏) 雲仙青年観光会発足(初代会長に石田盛一氏) 	<ul style="list-style-type: none"> 9月19日、水中翼船航路。 11月13日、温泉センター「望洋荘」開館。 福江空港が完成。 	◆6月20日 観光基本法制定(1963)
1964	昭和39年	<ul style="list-style-type: none"> 国立公園指定30周年記念式典(A5)及び5回長崎県自然公園大会開催(白雲の池) 3月池の原、宝原間の道路完工。 雲仙ゴルフ場の経営を雲仙観光協会に委託。 雲仙～神代山道路が竣工 8月宝原園地駐車場、園路、休憩舎等完工 10月九州国際観光バス(株)が長崎・雲仙熊本・別府間長距離バスの運行を開始。 インド大使、来仙、中国有効経済代表団来仙、ニュージーランド大使、セロン大使来仙。 	<ul style="list-style-type: none"> 東海道新幹線が開通した。 第18回オリンピックが東京で開催された。 山頂バスが開通。 4月、富津保育所落成。 九州横断道路(やまなみハイウェイ)の開通式。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆10月10日 東京オリンピック開催(1964) ◆東海道新幹線開通(1964)
1965	昭和40年	<ul style="list-style-type: none"> 11月「雲仙を楽しむ」発足 三笠宮殿下、同妃殿下御来仙、高松の宮、同妃殿下が来仙。 雲仙郵便局新庁舎が落成 雲仙回廊観光案内所「雲仙の四季」 オーストラリア大使が来仙。 国鉄観光映画ロケ隊来仙(仲宗根英樹) 	<ul style="list-style-type: none"> 10月、町体育館落成。 国民宿舎「望洋荘」が完成。 	
1966	昭和41年	<ul style="list-style-type: none"> 仁田峠駐車場拡張工事竣工 常陸雲仙担当区事務所落成 9月テレビ「君の名は」のロケがはじまる 11月長崎電報電話局仁田峠新館入 「ホテル本多」開業(昭和55年廃業) 	<ul style="list-style-type: none"> 4月南高来都西部町村し尿処理場完成 11月長崎小浜電報電話局完成 志松空港完成。上五島縦貫道貫通。 町営道の池野野営場開設 小浜公園完成。町営駐車場完成 	
1967	昭和42年	<ul style="list-style-type: none"> 7月29日、第8回自然公園大会 雲仙天草国立公園、天草五嶺地区165.2haが国立公園に追加、合わせて250、665、2haとなる。 10月 雲仙ゴルフ場ショートコースが完工 雲仙神代山代原道路開通 雲仙さんの新築を観光客へ接待する(雲仙青年観光会) 「NBCロッジ雲仙」開館 「雲仙ファミリーホテル」開業(昭和63年廃業) 「雲仙パークホテル」開業 	<ul style="list-style-type: none"> 4月1日、南高南高7町村立伝染病棟完成 高橋虚子を想ふ会開催 長崎バス開通 7月～8月街全体下ばつとの被害を受ける 元首相岸内氏来仙(九州ホテル泊) 	◆8月3日 公害対策基本法制定(1967)
1968	昭和43年	<ul style="list-style-type: none"> 2月ゴルフ場に1mを超える積雪がある 12月仁田峠駐車場開路工事完工 雲仙地区治水対策委員会が結成された 別所ダム完工 「ホテルニュー雲仙」(現福田園開業) 	<ul style="list-style-type: none"> 平松バス開通 百合根組合解散 対馬縦貫道路が開通した 	
1969	昭和44年	<ul style="list-style-type: none"> 4月温泉岳観候所が雲仙岳観候所に改められる 5月雲仙ついで祭開催(ヤマヤシマシマ池の原に植樹) 雲仙「山神祭」行われた 雲仙開山の行基菩薩御生忌法会が営まれた(開山1269年) 6月8万地区の小爆発を起こす 切所道路竣工 新橋へ小地蔵間道路舗装工事竣工 原生沼公園道路改良舗装工事竣工 雲仙観光開発株式会社設立発起人会が開かれた 8月雲仙佐世保間に県営、鳥鉄、西肥バスの直通共同乗り入れが開始される 地蔵地帯休憩舎新築工事竣工 野外音楽祭が白雲の池野営場で開催された 別所ダム完成(オンドリの池)第1回火花大会開催 11月皇太子殿下御来仙 旅館開荘、開業 	<ul style="list-style-type: none"> 10月25日、天皇、皇后両陛下、小浜町に幸せられる 温泉噴水「虹の湯」完成 9月18日、観光姉妹都市町盟約(牧野町・霧島町) 3月温水プール完成 温泉岳観候所が雲仙岳観候所に改称 日本交通公社、雲仙営業所を開所 	
1970	昭和45年	<ul style="list-style-type: none"> 3月別所ダムにオンドリ20羽、アヒル70羽、ガチョウ30羽が放鳥される 県道口之津、雲仙線が開通 雲仙天草国立公園管理官職舎が新築された 雲仙観光協会事務所が移転 	<ul style="list-style-type: none"> 10月25日、第一回町民体育祭 11月ケン立小浜高校総合落成 11月北野保育園開園 長崎開港400年式典 日本万国博覧会 	◆3月、日本万国博覧会開幕(1970)
1971	昭和46年	<ul style="list-style-type: none"> 雲仙、雲仙小浜観光協会発足。 8月第3回国立公園大会が常陸宮、同妃両陛下をお迎えして開催される (台風のため国際観光会館で記念式典が行われる) 鳥鉄バスが雲仙、仁田峠間の運行を開始 「ホテル湖岸」開業 	<ul style="list-style-type: none"> 3月31日、木津分校を富津小学校へ統合。 4月30日、二市町の県央広域市町村会発足 4月1日、小浜町福祉協議会発足。 10月16日、小浜～加津佐間、日本陸連公認マラソンコースに認可 国道251線北本町～飛子間舗装。 長崎～福江間にカーフェリーが就航した。 	
1972	昭和47年	<ul style="list-style-type: none"> 10月18日、雲仙諏訪の地国民休暇村決定 礼の原に雲仙ニュースコート完成(長崎バス(株)) 	<ul style="list-style-type: none"> 4月1日、県央地区域市町村圏組合消防防部設置される。(小浜消防防部設置) 県営かん事業始まる(富津・山頂・北村地区) 7月23日、第一回九州少年剣道錬成大会開かれる。 10月23日、歌謡曲「おいで雲仙」「夕日の町」が出来る。 第一回小浜町湯祭り開催計画される。 長崎県内に、「自然環境課」が設置 	◆6月5～16日「国連人間環境会議」(於ストックホルム)開催(1972)
1973	昭和48年	<ul style="list-style-type: none"> 3月号道場が老朽化のため撤去 4月小浜～雲仙～島原間の有料道路が無料化される 4月雲仙旅館ホテル協会の製茶工場落成 8月7日、雲仙テレビ情報局開局 11月 雲仙ゴルフ場クラブハウス落成 雲仙自然研究路完成 自動公園に「行基立像」建立 劇作家花登賢氏来仙 	<ul style="list-style-type: none"> 3月31日、金浜分校を北中小学校へ統合。 4月1日、小浜～雲仙～島原間の有料道路が無料化となる。小浜港駅を立て完成。第一回小浜町湯祭り。 4月5日、小浜町梅園、木指保育所完成。 5月16日、特別養護老人ホーム「湯楽苑」完成。 6月30日、小浜小学校運動場完成。 11月1日、小浜温泉街ミュージックサレン設置 6月22日、国立小浜病院新築完成 小浜町立立花園福祉センターができた。 小浜町花と緑の会が発足 	◆第1次石油ショック起こる(1973)

